

クイズラリー、人力車、寺社活用



八嶋さん（手前右端）の案内でまちを探索する学生＝仙台市宮城野区宮城野1丁目

東北福祉大・共生まちづくり学部

東北福祉大が本年度に開設した新学部「共生まちづくり学部」の学生が、仙台市宮城野区のJR仙台駅東口地区で初めてのフィールドワークに臨んだ。仙台藩主伊達家ゆかりの史跡や文

学碑を巡り、まち歩き観光の改善策を探った。

1期生139人のうち43

人が参加し、東口ガイドボ

ランティア「宮城野さんぼ

みち」の八嶋敏郎さん(75)

と久保一さん(74)が案内役

駅東調査 魅力掘り起こし

を務めた。2班に分かれて榴岡公園を出発し、4代藩主綱村の生母三沢初子らが祭られている「政岡墓所」、作家島崎藤村の石碑がある「藤村広場」などを約1時間半かけて回った。

調査後は同大の仙台駅東口キャンパスで、まち歩きの参加者が高齢者に偏っている現状の打開策を話し合った。交流サイト(SNS)で映えるフォトスポットの設置、クイズラリーの開催、人力車の導入といったアイデアが挙がった。

猪股幹大さん(18)は「仙台出身だが、駅近くに寺社がこれほど集まっているとは知らなかった。観光にどう有効活用できるか考えた」と語った。石塚裕子教授(都市計画)は「地域の人と共に学ぶ面白さや難しさを知ってもらい、いずれは地域振興の企画や課題解決の提案ができる力を付けてほしい」と期待した。

フィールドワークは4月27日にあった。

仙台まち歩き改善策続々